

平成31年 第2回 男鹿市教育委員会会議録

1. 日 時 平成31年3月19日(火)  
午前10時～
2. 場 所 男鹿市役所 本庁舎3階 第3会議室
3. 出席者 教育長 栗森 貢  
委 員 目黒 恵子  
委 員 吉田 貴美子  
委 員 安田 一彦  
委 員 小玉 亜紀子
4. 出席職員 教育次長兼生涯学習室長 目黒 雪子  
学校教育課長 加藤 和彦  
学校教育課主幹 加賀谷 正人  
学校教育課主幹 湊 留美子  
生涯学習室主幹 佐藤 延明  
文化スポーツ課副主幹 伊藤 直子
5. 案 件  
議案第8号  
男鹿市指定文化財の指定について(男鹿半島新報)
6. 報告事項  
(1)平成30年度末教職員の人事異動について  
(2)平成31年3月市議会定例会での一般質問等について(教育委員会関係)
7. 課長の報告
8. その他
9. 次期教育委員会会議の開催日時
10. 閉 会

【議事 午前10時開会】

○教育長

ただいまから、平成31年第2回教育委員会会議を開会いたします。

本日の議題につきましては、案件が1件、報告事項が2件であります。平成31年第1回の会議録については、委員の皆様から署名いただきましたので承認されました。

それでは案件に入ります。始めに、議案第8号男鹿市指定文化財の指定について事務局より説明願います。

○文化スポーツ課副主幹

資料に沿って説明

○教育長

ご質問がありましたらお願いします。

○委員

なし。

○教育長

議案第8号について承認されました。男鹿半島新報を男鹿市指定文化財に指定することとします。

○教育長

続いて報告事項1の平成30年度末教職員の人事異動について事務局より報告願います。

○学校教育課長

資料に沿って説明

○教育長

続いて報告事項2、平成31年3月市議会定例会での一般質問等について事務局より説明願います。

○教育次長兼生涯学習室長

資料に沿って説明

○教育長

ご質問がありましたらお願いします。

○目黒委員

アレルギー問題は以前にも話題が出て対応について話し合いがされていたが、その時の対応は今も継続されているのか。

○学校教育課長

学校給食の中でもアレルギーには対応していく事となっており、小中学校ではアレルギー対応マニュアルに沿って各学校の方で進めております。現在も継続して進めております。

○教育長

アレルギー症状があるお子さんを抱えている当該校では、エピペンが何処にあるかを確認しており、即対応が出来るような体制をとっております。

○吉田委員

就学支援金についてであるが、進級するにあたって学用品等を揃えるにあたり、制服の金額がかなり高くなっている。男鹿市では他市で行っているような制服リユース事業は行っているのか。市内のボランティアや NPO で行っている所はあるのか。

○学校教育課長

市でもボランティア団体でも市内で行っている組織はありません。地域の繋がりで譲り受けたりはしているようであります。

○吉田委員

福岡の古賀市では保護者負担軽減事業として、教育委員会の方で要らなくなった制服や指定の学生カバンを回収し、欲しい方に広報で呼びかけたりしている。鹿角市でも要らなくなった制服等を回収し、所得に関係なく希望者に提供している。秋田市ではクリーニング店が NPO と連携して、不要になった制服をクリーニング店に持っていき、希望者はクリーニング代を支払うだけで制服を受け取る事ができる取り組みをしている。男鹿市でも取り組んでみては。

○目黒委員

娘の制服も捨てれずじまいなので、リユース的な取り組みがあればぜひ利用したい。

○小玉委員

中学校の時の制服をしまっているの、どこかに寄付したいなと思っていた。秋田市の NPO 法人に行って寄付したいなと個人的に考えていた。購入するとなるとかなり高額になるので、リユース的機関があればいいなと思う。

○安田委員

私も賛成である。娘が中学校の時はブレザーになり高額になったなと感じた。地域内で先輩から譲り受けたり着回したりもしていた。高校に入っても着回している人はいるようだ。ただ記念として残しておきたいと思う人もいるのでは。

○教育長

制服のリユースというのは有効な財産活用としていい取組であると思います。NPO 法人が機能していけばいいと思います。

○安田委員

国際社会の中でグローバル社会を生き残れる人材の育成が求められるとある中で、英語を話せることに越したことはないが、新たな教科として道徳が導入され、英語も導入されるとなると先生達も子ども達も時間的にかなり負担になってくると思う。国際的な考え方が必要なのはわかるが、大変な問題と感じている。

○教育長

学校に求められるものが増えてきている中でパソコンを活用したプログラミング教育が小中高と指導要領に求められ、必ずやらなければならないになります。筋道を立てた考え方をして ICT を活用して、プログラミングを組んで動かしていく事も、これからの社会に必要な一つの要素となります。学校側でどのように指導していけるか、どうやったらそうした力を身に付けさせていけるかにかかってきます。

○安田委員

今までの課題が残っている状態で先走っているような所があるように見える。

○目黒委員

これは男鹿だけの問題ではなく、全国的な問題である。私の実家は名古屋であるが、子ども達も小さい頃から自然に海外の話題や進学する大学の話題をしている。男鹿はちょっと孤立的な所があると思う。良く言えばまとまりのある家庭的ないい雰囲気だと思うが、一方で国際感覚がちょっと欠けていると思う。今、時代がすごい流れで変革しているし、外国の問題が飛び交う中、子ども達が義務教育を終えてすぐ大学に出る時に国際感覚に対応できるように、小さい頃から英語を家庭環境の中に取り入れていかなければいけないと思う。男鹿がかけ離れていくのが心配である。

○小玉委員

私たちの時は英語の教科は英語しかなかったが、今はコミュニテイ英語と英語表現と英語の時間が二つに分かれていて、それこそ話せる英語と読み書きの英語に分かれている。小中高の指導要領の一連の流れの中で話せる英語を見据えての今回の指導要領になっているのだと思うので、先生方が英語を教え、研修を重ねていかなければならないのは大変とは思いますが、英語の必要性は強く感じている。授業だけでは無いところの環境作りも必要と思う。また、理数系にも力をいれていきたいといった流れは私も強く感じており、高校でも将来の就職先を見据えて理数系を選択する子供も多いようだ。

○教育長

文科省では2年位前から「Society5.0」という施策が打ち出されています。宇宙科学的なものとか、南極・北極の極地とかの生態も含め、AI（人工知能）といったことも入ってくるのですが、そういった社会に対応する力を付けないと世界に太刀打ち出来ないという日本の生き残りがかかっていると感じております。優秀な人材を育てていきたいという思いがあります。

○小玉委員

小中学校の在り方を考える協議会は、非常に重要な会になると重く受け止めている。

○教育長

来年度、会を立ち上げて男鹿市全域から関係者をリストアップして、4、5回位会議を開いて子ども達の人口推計、小中学生が10年後にどれ位いるのか、学区毎にどれ位の人数になっているのか、地域がどんな事を求めているのかを話し合ってもらって頂き、提言をもらえればと思っております。

○教育長

何かご質問はありませんか。

○委員

なし。

○教育長

続いて学校教育課長から報告があります。

○学校教育課長

市内各校のいじめの認知と不登校児童生徒の実際について（3月調査）と平成31年度入学式の日程について資料に沿って説明。

○教育長

何かご質問はありませんか。

○委員

なし。

○教育長

その他何かご質問はありませんか。

○委員

なし。

**【次期教育委員会会議の開催日時】**

○教育長

それでは次回教育委員会会議の開催日時について、事務局から説明願います。

○学校教育課長

次期教育委員会会議は5月の中旬を予定しております。

○教育長

今回は5月の中旬の開催となります。

以上をもちまして、平成31年第2回教育委員会会議を終了いたします。

〔午前11時05分閉会〕